

## (農)新免営農組合 滋賀県大津市上田上

### 基本情報

- ・ 大津市は県南西部に位置し、年平均気温は14.8℃
- ・ 大津市の耕地面積の約95%が水田
- ・ 上田上地域は大戸川を流域とした平坦地で、土質は砂壤土
- ・ 組合員数28名

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	15.6ha	90a
麦類	5.5ha	—
大豆	5.5ha	—



すき込み時期判断のための  
生草重調査

### 経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- ・ 水稻はすべて県の環境こだわり栽培基準(農薬・化学肥料の低減)に基づき栽培
- ・ 品種は「コシヒカリ」、県育成新品種「みずかがみ」、「滋賀羽二重糯」を作付
- ・ 「はなふじ」米(商標登録を取得)として大津市のブランド米として有利販売
- ・ 平均反収は「コシヒカリ」で約7俵程度
- ・ 「コシヒカリ」作付面積の約半分で、ヘアリーベッチを緑肥として用い低コスト栽培を実施

### 稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

10月頃にヘアリーベッチを播種し、4月頃にすきこむことで、後作の水稻において、元肥・穂肥の施用を省略できる栽培

- ・ 肥料 ※環境こだわりコシヒカリ(以下慣行栽培)との比較

① ヘアリーベッチ栽培: 種子代のみ

慣行栽培: 土づくり資材(粒状ミネカル)

滋賀こだわり元肥ハーフコート344(13-4-4)

滋賀こだわり穂肥ハーフコート306(10-6-10)

② 播種、すきこみ作業が必要となるが、うねたて、穂肥散布作業が省け、労働時間を削減

③ 田植時の肥料の積込みが不要、暑い時期の穂肥散布が省けるなど、作業の軽労化

- ・ 農薬

ヘアリーベッチ栽培の後作と慣行栽培は同じ防除体系

### 導入効果

- ・ 施肥 (慣行栽培との比較)  
肥料費 ▲約6割  
労働時間 ▲約3割

【参考】

コスト(10aあたり)

HV: 4,600円(種子量4kg)

慣行: 12,209円

(土づくり資材100kg

元肥28kg, 穂肥28kg)

時間(10あたり)

HV: 9.0時間

(播種およびすきこみ作業含む)

慣行: 12.9時間

(うねたて作業2回、動噴での穂肥散布作業等が必要)

### 支援体制

- ・ 県農産普及課からの提案により平成21年から栽培
- ・ 近隣の集落営農組織とともに生産グループを組織し、JAレーク大津にて集荷

### 課題・今後の目標

- ・ 水田の土質によって、すきこみ量を調整する必要
- ・ 慣行栽培と比較して1割程度減収することが多い傾向